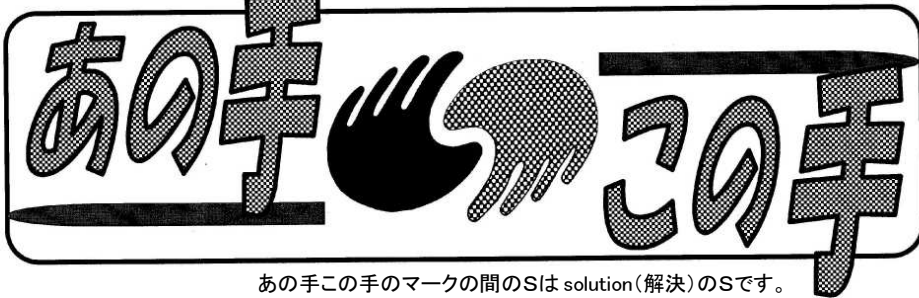


あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！



2012
1
月号



花ことばは「裕福」
センリョウに松は新年を
寿ぐにぴったり。よい年
でありますように…
—センリョウ—

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第54号 2012年1月4日発行



絵: 高橋若奈(林間小6年)

＜高橋若奈さんからのメッセージ＞
私は、宇宙人が驚くような地球ではなく、
宇宙人に誇れるような地球にしたいです。
今、日本では、不法投棄やポイ捨てなどの
問題が起こっています。ポイ捨てする人は
「ひとつぐらい」という軽い気持ちからな
のではないのでしょうか。「一つぐらい、一
つぐらい…」一つが千にも一万にもなるの
です。
一人ひとりの『ポイ捨てをしない』という
心がけで、ごみの山が少しずつ減り、やが
てなくなるといいなと思います。

1月号から3回にわたって、市が募集した
2011年度環境ポスターの優秀賞に入賞した
ポスター3作品を掲載します。
今回、市内小学生を対象にした環境ポスタ
ーコンクールに998点の応募がありました。
「塵(ちり)も積もれば山となる」という諺(ことわざ)
がありますが、これはどんなに小さなもの、
わずかなものでも疎かにしてはいけない
というたとえ。でも、今回のポスターは「これぐ
らいいいか」と捨てた「ごみ」が宇宙人もびっ
くりの「ごみの山」をつくってしまうということな
んですね。

協力・市役所生活環境保全課美化推進担当

2012年が始まりました。

おめでとうございますとはまだまだ言えない年明けです。
2011年の漢字が「絆」であったように、昨年は多くのボランティ
ア・市民活動団体が被災の救援にあたりました。当センターにも
多くの人たちからの報告が届きました。次のステージでは多くの
市民の知恵が「新しい公共」となって、被災地の復興にコミット
していくことでしょう。それを聞くのが、楽しみです。
センターは今年も「新しい公共」の広がり発信して行きます。
[拠点やまと]会長 関根孝子

＜送付の際、同封されているご案内＞

・第49回連続共育セミナー「NPOで働くということ」のご案内



共育ボール、しっかり
受け取って、明るい年
にしてね。

ボクは経験を食べて大きく
なるんだ。つらい経験を飛
躍の糧にするよ。

*「あの手この手」は大和市民活動センターのH.P.では
カラーでご覧になれます。

<「地域発」で公共交通を考える>

主催:かながわ福祉移動サービスネットワーク

「市民参加でつくる地域交通セミナー」(2011/12/16 実施)に参加してきました。(報告:小杉)



地球環境と地域社会を持続させるためには「お出かけ」を支える移動手段の確保が欠かせない。

地域には移動手段のビジネスモデル(経済)を意思決定(社会)する「権利」がある。

(当日の基調講演者:吉田 樹さん(首都大学東京 助教)のレジュメから)

「おっ、こんなにもこれからの公共交通に関心がある人がいるんだ」。見渡すと会場のホール(横浜情報文化センター)は満員。

「公共交通? バスがなくなっても、今やひとり1台のマイカー時代、クルマがあれば不自由しないよ」がフツーというか、世の常識かとも思っていたのが、「マイカーに過度に依存した都市は「街の顔」が失われ、「豊かな郊外」も失われる」と講演の吉田さんのパワーポイントにあった。そういえば、かつて、にぎやかに人が行き交っていた商店街の道は人の影がなくなり、郊外は全国チェーン店の

ワンパターンの派手な看板に広い駐車スペースをもつ大型店が全国どこでも見るようになってきている。

大和市もそんなところがある。

そこで立ち上がったのが「のりあい運行実行委員会」。

報告者は実行委員会事務局長・入澤牧子さん。

2008年10月に「準備会」を立ち上げ、試乗調査、試運行を重ね、2009年8月に大和市との協働事業に決定。現在一日10便、上草柳・鶴間駅・市役所・市立病院ぐるりと回っている。



市民活動の現場から



幻の小麦を手にしたくて

地産地消を広げる活動を続ける

「食のアトリエ」

「なないろ畑つるまの森農場」は緑地保全と動植物との共生をめざし、地域の人、子どもに開かれた農場です。



麦の種を播きました

麦を栽培、小麦粉にしてうどんを作って食べようと、農場の管理人の助けを借りて麦の種を播き、麦踏みをして6月の収穫の時期を迎えた。麦秋に揺らぐ景色を愛でている暇もなく、鎌を持ち、麦刈りをして、乾燥のために麦を立てる。さあ、玄麦を手にするために、市民活動仲間とせせと声をかけ、資料館に飾ってあるような脱穀機、江戸時代に使われていた唐箕(とうみ)を使っての作業に没頭。

人海戦術というのは、このようにするのかと、みんなの働きの結集で思いのほかたくさん玄麦を手にすることができた。参加者から「一粒の玄麦も無駄にできない、もったいない」という感想を聞く。秋まで待つて地粉にする。今回、国産の原材料で冷凍食品をつくっている企業の協力を得て、試験的に製麺をしてもらった。あつという間に完食。もう少し食べたいと思っても、1年待たなくてはならない。来年、またおいしいうどんを食べようと、仲間と種まきを終えたところだ。麦刈りした麦穂を眺めながら青空を仰ぐ爽快感を夢みて……。 (小宮山利恵子)

被災地にライトアップを!

「被災地富岡町にライトアップを! 実行委員会」

(大和市民活動センターは協力団体)



キャンドルライトで浮かび上がった「3.11」と「9ヶ月」の文字

東京電力第2原発のある福島県富岡町は現在、役場や仮設住宅が郡山市内に移転しており、震災9カ月後の12月11日に、仮設住宅において、追悼式及びライトアップの行事が行われました。当日は、江ノ島展望灯台のライトアップで装飾をして、「おりがみサークル」のクリスマスオーナメントやアンパンマンシリーズの可愛い折り紙と「しんちゃんハウス」や「柏木学園高校」の生徒・先生からのメッセージカードを被災者一人ひとりにお渡ししました。

大和市から届いた心温まるプレゼントを手にした大人や子どもの多くの笑顔を見る事が出来ました。しかし、富岡町の方がたは、故郷にいつ戻れるか全く分からない状況で、精神的にも辛い毎日を過しておりますが、近い将来、本当の笑顔が戻るまで、継続的に支援をしていきたいと思います。

(実行委員会事務局 杉下由輝)

「センター」のある日ある時

12月6日(火)くもり

イチョウの葉が色づき始めると、落ち葉掃きが日課となります。今日が大々的な落ち葉掃きのスタート日。サポーターの今里さんがていねいに落ち葉を集めて、90リットルの袋がいっぱいになりました。あと何回掃くのか、気が遠くなりそうな数のイチョウの葉っぱが枝にあります。“落ち葉掃き隊”募集!



折り紙とメッセージを松本自治会長に渡す杉下さん(写真左)

大和の芋焼酎「^{なご}和み」を飲んで和やかに交流しました

第 48 回連続共育セミナーの報告

12/16(金)に実施しました

「おいしく食べて、もっと、もっと大和市を知ろう」

「大和市にこんなにたくさんの推奨品があったの？」とビックリする。

今年は大和産芋焼酎「和み」が誕生。

まずは、このプロジェクトの総責任者・前大和市農政課長が「和み」が発売されるまでの苦労話を披露。それからやっとな乾杯。

「なかなかおいしい」と参加者からの感想を聞いて、なぜか、ホッとした。



こんな感想が…

- ★大和市の推奨品って20種類以上もあったんですね。
- ★記念に「和み」のピン持ち帰りしたいけど…いいよね♪
- ★宣伝が足りない。関係者はもっと積極的にPRしなくちゃ～。今夜はPR大会だね。



- ★「大和市民活動センター」初めて来たよ！こんなに愉快的な場所とは知らなかった！普段何やってんの？
- ★毎回の「共育セミナー」も、もっと楽しくしてよ～。
- ★サポーターとして次のイベントにまた参加しますね。

次回は第 49 回連続共育セミナー



「NPO で働くということ」PART1

～言いたくても 言えない モヤモヤ～

日 時: 1月26日(木)18:00～20:00

場 所: 大和市民活動センター会議室

話し手: 関根孝子さん(「拠点やまと」会長)

福祉系 NPO 法人の理事

NPO 法人には様々な活動があり、運営形態もいろいろ。

- ・理事に報酬が支払われ、活動はボランティアが担っている。
- ・理事の活動もボランティアで、事務局スタッフにのみ賃金が支払われている。

などなど。

同じ目的に向かっの活動なのに…

言いたくても言えないモヤモヤを抱えていませんか？この際、モヤモヤを吐き出してみれば？解決策をみんなで考える2回連続のセミナーです。ご参加ください。

その次の第 50 回連続共育セミナーは「NPO で働くということ」PART2

～モヤモヤを減らしてスッキリ活動しよう！～

日 時: 2月23日(木)18:00～20:00

場 所: 大和市民活動センター会議室

話し手: 杉下由輝(ゆうき)さん

「さがみの国大和フィルムコミッション」副会長



大和市民活動センターは“出会いの宝庫”。その都度、出会いがあり、つながりが生まれています。モヤモヤ解決のヒントをいくつか持っています。

* NPO 法人「地域家族しんちゃんハウス」児童保育という形態をとりながら、障がいのある方からお年寄りまで集える居場所。

「しんちゃんハウス」のクリスマス会 (12/15(木)実施)

スタッフ奥野さんの「はじめの言葉」に始まり、小学4年生の男の子が弾くピアノの演奏に合わせてクリスマスメドレーの大合唱。太鼓組とダンス組に分かれた小学2年生が舞台上で「まるまるモリモリ」を踊り出すと、手品クラブの男性二人も子どもに合せて楽しそうに踊り出した。スタッフ5人によるハンドベルの演奏が終わると、「緑手品クラブ」の手品が始まり、上手く手品が進むと拍手喝采。少しでももたつくと「がんばれ！」の声援が飛ぶ。その後はいよいよプレゼントの入った大きな袋を担いだサンタさんの登場。今里サンタさんがドラマや映画で話題になった「海猿」の話をしてくれました。最後にボランティアの今里さんと「緑手品クラブ」のお二人に、子どもたちから「歌のプレゼント」があり、元気いっぱい楽しいクリスマス会でした。(櫻井)



「センター」のある日ある時

12月10日(土)晴れ

寒い朝、センターの窓を開けての掃除。突然天井で鋭い鳥の鳴き声をした。探すと紛れ込んだ白黒の小鳥が逃げ回っている。驚いたことに、今度は反応するようにイチヨウの木から賑やかな鳴き声が上がった。気付かなかったが、毎朝、こんなにたくさんの鳥がイチヨウの中で朝の挨拶をしていたのだ。(N.M)





「市民活動の素晴らしさに感動しています」

FM やまと 担当パーソナリティ Jhonny さん



パーソナリティの
ジョニーさん

2011年は、「生きる」「暮らす」という何気なくしていたことを振り返り、その事について考えさせられる年でした。私自身は劇的に何かを行ったわけではありませんが、今まで以上に「他人の身になって考えてみる」ということを心がけていたように思います。

今年も多くの市民活動団体にご出演いただきましたが、みなさんの活動内容等をうかがうと、思わず“ありがとう”という気持ちになります。

私は何も出来ませんが、皆さんの活動に感謝をしたいと思います。そして、このことを、もっとたくさんの方に知っていただきたいとなります。

2012年は、これまで以上に多くの方に皆さんの活動をわかりやすく伝えられるように頑張ります。ぜひ、『FMやまと』を聴いてください！

「やまとっこ みつけた」を聴いたら感想を

FAX、メールで【FMやまと】へ。

FAX :046-265-2777

e-mail :morning@fmyamato.co.jp

<これからの出演団体>

第147回 1/17(火)「引地川水とみどりの会」

第148回 1/31(火)「日本オオカミ協会」

第145回 12/6(火) ~出会いが財産~

<NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア>

児童虐待が社会問題となった頃、これから子育てをする人たちのために何かしたいと、2000年に子育て支援の活動を始めました。活動内容は「子育てサポート」「ファミリーサポートセンター事業」「養育支援」月1回の「チャイルド広場」。最近では身体接触を通して親子の絆や感覚を意識していく「タッチコミュニケーションプログラム」を始めました。活動の中でたくさんの出会いが、ものすごく大きい財産となっています。



これだけ人との関わりを強くしてくれる活動は未だかつてなく、チャイルドイルドケアをやってよかったですと感じています。

第146回 12/20(火) ~本当に必要としている支援は何か~

<サポートチーム G>

東日本大震災が起こり、インターネット仲間を通じて支援物資を募集したところ、3日間で2tトラック1台分くらいの物資が集まりました。その物資をなんとかして現地に届けたい思いから活動が始まりました。最初は瓦礫をどかしながら車を走らせました。7月になって「震災支援」から「復興に向けた支援」に方向性を変え、「サポートチームG」と団体名を変更しました。会員30名、賛助会員10名、協力者400名になり、毎週ボランティアを募ってマイクロバスで被災地に行っています。



★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★ やまとっこ☆みつけた ★やまとっこ☆みつけた★やまとっこ☆

干支は中国の起源？東南アジアではアチコチで見られます。タイでは「あれ？13もの干支が！」中心に象徴の“ゾウ”がいました。さすが猫はいませんでした。イノシシの箇所は可愛い「ブタ」でした。(望月則男)

「ところで、私ウマ(午)年ですが、なに年ですか」と聞いたら、「私も同じ午ですよ」と。急にその人に親しい気持ちわき、馬面(うまづら)に見えてきた。(小杉皓男)

孫に(私の長男)「俺と同じ寅年、隔世遺伝で手相までそっくりだ。しつかりしろ」と口癖のように言っていた義父は96歳で昨年亡くなりました。一周忌を済ませたばかりです。(櫻井貞代)

母も私も娘も申年。3代続くのは珍しいらしい。3人ともテナガザル似。話がよくとぶところも、軽やかに移動するサルだから？(村山真弓)

熱血編集後記

テーマ:あなたにとって干支とは。

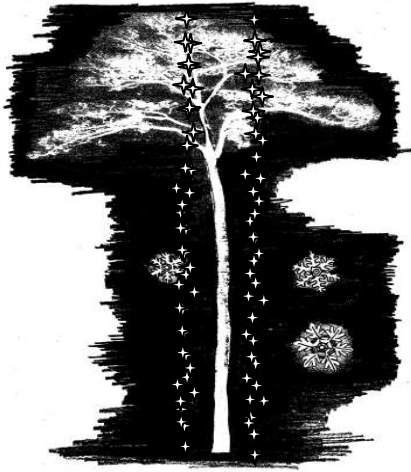


何気なく買い集めた干支の飾りが十二支揃いました。福を運んで来てくれるかも？(中山みゆき)

巳年が一家に3人いるとお金に困らないと言う。我が家はあと一人、息子に巳年の嫁さんを探すよう指令した。そしたら、孫でもいいんじゃないのと言われた。(関根孝子)

干支は十干十二支の略称。暦、時刻、方位等を表したが、今、十二支の年通称や占い等で使われ、西暦より趣を感じ、日本文化の一部と思う。(浅見正明)

「筋斗雲(きんとん)の上からおめでとーう(申年)「4人でワン・ファミリー」(戌年)は写真で年賀状を作っていた頃のキャプション。これを最後に年賀状はやめた。その後に生まれた娘は一度も登場しない。(石川美恵子)



大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。

2012年1月号(第54号)をお届けします。

「あっ、これはあの陸前高田市の『奇跡の一本松』だ」と12月25日(日)付の新聞朝刊に載っていた写真を見てすぐわかった。

7月号(第48号)の「お届け文」にこの陸前高田市の名勝・高田松原の松、約7万本が3.11の大津波ですべてなぎ倒されたなかで唯一、一本だけ生き残った松の木のことを記しました。

「高田松原を守る会」が中心となり、懸命にこの松の保護活動を続けたが、12/12「枯れ死に至った」という結論を出さざるを得なくなった。そこで、クリスマスイブの24日(土)、一夜だけライトアップ。雪が舞う中「奇跡の一本松」が浮かび上がった。その写真が翌日の25日(日)の新聞各紙の一面などに掲載されました。写真をよく見ると、2本のサーチライトの光芒が一直線に遙かかなたの天空に向かって伸びている。それは「一本松への感謝」「復興への祈り」を込めた2本の光芒だとあった。

陸前高田市の市長・鳥羽太さんは「海水につかりながらも、9ヶ月間みんなの支えになってくれた」と、「希望の一本松」とも呼ばれたこの松の木への感謝を口にしている。

毎日新聞12/14付によると、この枯れ死した松の枝から命をつなぐ4本の接ぎ木が独立行政法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場で順調に育っているとあり、この法人から依頼を受けた漫画家のやなせたかしさんが長男「ノビル」、次男「タエル」、三男「イノチ」、四男「ツナグ」と命名したとありました。

「奇跡の一本松」に人は希望を見た。そして今度はその「希望」を根絶やしにしないで、つないでいくという努力を知ることができました。

一連の「一本松」情報。私(たち)はその事実を通して、つい理由をつけ、怠けがちな日常を反省させられ、鼓舞され、励まされました。

2012年が始まりました。

「希望」を持つことの大事さを思います。

記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2012/01/04



イラスト・望月則男

